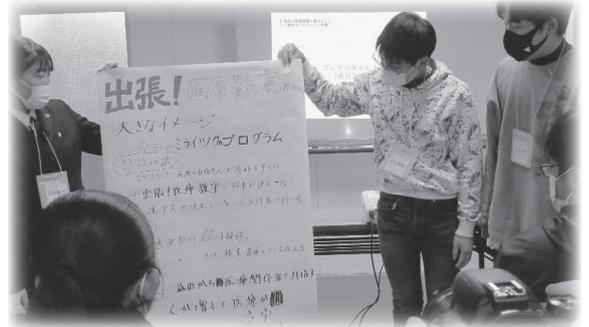




## 益田の医療を守る市民の会と高校生が交流を行いました！

12月20日(日)に、高校生を対象とした体験型ワークショップ「ミライツクルプログラム」の一環で、益田の医療を守る市民の会と医療に関心がある市内の高校生が交流を行いました。

益田の医療を守る市民の会を設立した経緯や活動内容の紹介の後、市民の会の役員と高校生が少人数のグループに分かれて、なぜこの会に参加するようになったのか、どんな思いで活動しているのかなどについて話をしました。



その後、高校生はグループに分かれて、医療従事者を増やすためには高校生に向けて何をしたら良いか話し合い、それぞれのグループの提案を発表しました。高校生からは、応急手当セミナーや医療現場体験ツアーなどの企画が提案され、将来の職業を考える中で医療従事者を身近に感じることが医療従事者を目指すことにつながると感じました。高校生目線での提案は、今後の市の取組を考える際の参考になりました。

### 日本遺産のまち益田の歩き方

### 第8回 暁音寺とまち並み

### 【問い合わせ先】

益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会  
担当：市文化財課 ☎ 31-0623

暁音寺の手前は、この通りと、益田氏の山城・七尾城跡と館・三宅御土居跡を結ぶ道の交差点となっています。この2本の通りが、益田氏の城下のまち並みの基準線となった

左下の図は美濃郡上本郷村道水路図といい、明治10(1877)年頃に作成された、現在の益田小学校区の道路と水路を示した図の一部です。この地域が当時と地形や道が変わっていないことがわかりますが、さらに遡って、中世から大きく変わっていないと考えられています。妙義寺から横断歩道を渡ると江戸時代の石橋があり、さらに北北東に道が延びています。この道に沿って左手側に順念寺、暁音寺があり、現在は寺町の様相を呈しています。しかし、暁音寺には、かつて境内が益田氏の重臣増野氏の屋敷であったことを記した棟札があり、関ヶ原の戦い後に益田氏が萩市須佐に移った際に増野氏も一緒に益田を去り、その屋敷跡に暁音寺が移ってきたことを伝えています。中世のこの通りの左手側には、益田氏の家臣の屋敷が並んでいたと考えられています。一方、右手側には「上犬ノ馬場」「下犬ノ馬場」という小字が残ります。これは、かつて犬追物という武芸訓練(あるいはパレード)が行われたことに由来する地名です。



美濃郡上本郷村道水路図(一部)に加筆

場 暁音寺…七尾町7番17号  
石見交通バス各路線のバス  
益田本町バス停すぐ

この交差点は、かつて鍵曲りという特殊な構造になっていました。七尾城と三宅御土居を結ぶ道を、あえて直線にせず、部分的にずらすことで敵が一直線に攻めてこれられないようにしていました。さらに進んで、突き当たりから南西方向に、弧を描くような道があります。この道の周辺には、東から「上市」「中市」「下市」の小字が残ります。中世の市場(仮設店舗)は河原に立ったとされます。益田でも益田川に沿って市場が立ち、それが時代を経て、市町(常設店舗のまち並み)となったことを示しています。このように、益田には地割りや地名にも中世の様相が残っています。